



広報

平成29年4月1日発行

たちばな

第29号

(財) 日本医療機能評価機構認定病院

橘 病院

整形外科専門病院

TACHIBANA HOSPITAL

<http://www.tachibana-hospital.jp>

MRI装置が新しくなりました

平成29年3月1日から1.5[T](テスラ)の新しいMRI装置(フィリップス社製Multiva)が稼働しています。

MRI装置は装置自体大きな磁石であり、新しいMRI装置の磁場の強さは前の装置の5倍の1.5[T](テスラ)となり、検査時間の短縮と高画質の両立が可能となりました。また、新しい撮影技術も搭載しており撮影に対する患者様の負担を軽減しながら、様々な病変に対応できる装置となっています。

撮影時間は、前の装置で腰椎の撮影の場合40分程度要していました。しかし、新しいMRI装置では20～25分程度と半分の時間で撮影が可能です。痛みが強く20分の検査に耐えられない場合はさらに短時間での撮影も可能です。撮影時間は撮影部位、病変、患者様の状況により多少異なりますが、30分以内の撮影時間を予定しており、前の装置より概ね半分の撮影時間です。

画質は、新しいMRI装置で1断面の厚みを1[mm]以下に設定することが可能であり、前の装置より高精細な画像を提供することが可能です。また、様々な撮影方法を搭載しており、病変にあった撮影方法で撮影を行うことにより、病変の広がりや病期を分かりやすく、正確に表現できます。

さらに、新しいMRI装置は課題である検査中の大きな音、体内金属(人工関節・骨折治療用固定具など)による画像の歪み、患者様の動きによる画像のボケに対する機能が充実しており、患者様の状況に応じた機能を駆使し撮影することにより、有益な画像情報を提供できる装置です。

患者様へのお願いとなりますが、前の装置より磁場の強さが強くなっており、安心して安全な検査を行うため、体内金属の有無の確認(手術の既往歴、事故歴など)や対外金属の取り外し(メガネ、腕時計、補聴器など)など、検査前に問診や金属探知機を用いたチェックを行います。以前より精度を上げた検査準備を行いますのでご協力をお願いいたします。

新しいMRI装置は整形外科領域以外の分野の撮影も可能です。今後の取り組みとして整形外科分野の撮影を充実させながら、その他の分野の検査においても対応できる体制を整備していきたいと考えています。

検査についてご不安、ご不明な点等ありましたら、放射線科スタッフへお声掛けして頂けると幸いです。

最後に、新しいMRI装置導入につきまして、MRI室の大掛かりな改修工事が必要でした。2ヶ月間に及ぶ工事を経て、無事稼働の日を迎えることができました。工事期間はMRI撮影ができず、患者様をはじめ皆様にご不便をおかけしました。

また、その際サポートして頂いた近隣病院の皆様に、感謝いたします。



検査科だより

超音波エコー装置が新しくなりました！

平成28年12月より、超音波エコー装置が最新式のものに変わりました。GEメディカルシステムズ株式会社のロジックS8という装置です。このロジックS8という装置はとてもきれいにエコー画像を撮ることができ、多機能で使いやすく、LED画面をも搭載したどこをとっても国内最高レベルのエコー診断装置です。

当院へ入院し手術を受ける際には、必ずエコー検査を受けなければなりません。いざ手術になった時に患者様がどのような健康状態であるのか、持病はあるのか、隠れた病気はないのか等、エコー検査を実施することでたくさんの情報を得て、万全の体制で手術に臨むためです。

当院は整形外科なので骨折や膝、股関節、腰の痛みで入院される患者様ばかりですが、自覚症状のない隠された病気を抱えている方も少なくありません。それを見つけ、その情報を念頭において手術をするためにも、エコー検査がとても大切になります。

また、手術後に最も多く発症すると言われている深部静脈血栓症、通称“エコノミークラス症候群”を見つけるためにも、エコー検査はとても有効とされています。

熊本地震の際、避難した車中泊の方が、早朝車から降りてトイレに行こうとした時に倒れた、とニュースになりましたね。これが深部静脈血栓症の症状です。長時間おなじ体勢で動かずにいたため、足の静脈に血栓ができてしまい、トイレに行こうと動いた瞬間に血栓が流れて肺につまってしまった…と、とても恐ろしい病気なので、注意が必要になります。

この病気を見つけるのに大きな役割を担うのが、エコー装置です。エコー装置が深部静脈血栓症の発見にどれだけ貢献できるのかは、私が参加した超音波医学地方集会でも発表されました。それは、熊本地震の際の出来事です。

地震の影響で、済生会熊本病院は医療機器が壊滅的な状態に追い込まれたにもかかわらず、深部静脈血栓症患者の治療をしなければならなかった。人手も機材も足りないなか、善意により「日本超音波医学会」から、東京～熊本まで空輸とトラックで超音波エコー装置20台が病院まで届けられたのです。その後相次いで各メーカーの超音波エコー装置が各避難所へ届き、医師や超音波検査士（超音波検査の出来る検査技師や放射線技師）が検査を行い、深部静脈血栓



症の早期発見と治療に多大なる貢献を残した、というのです。それほどまでに、エコー検査での深部静脈血栓の発見は有効なのです。

「エコノミークラス症候群は、車中泊症候群ともいえる」と済生会熊本病院の先生が言っておられました。足の血栓を見つけるために、日本超音波医学会、装置の機器メーカー、医療従事者との連携がとてもうまく働いた例かと思います。

当院に新しく入った装置は平成28年10月発売のもので、その震災の際にも協力をしていたメーカーの装置です。

検査科では、震災時にも役立った最新式の超音波エコー装置を駆使して、患者様の術前検査エコー、足の血管エコーを行い、正確で精密な検査ができるよう、また使いこなせるように、日々がんばっています。

いつの間にか骨折を防ぐ為に

近年、高齢者の転倒による骨折が増えており、特に女性に多く見られます。理由として、女性は閉経を境に急激に骨量が減少する「**骨粗鬆症**」を発症しやすいことが挙げられます。女性の骨粗鬆症になる確率、骨粗鬆症に関連した骨折の発生率は、男性に比べ**2倍**あるいは**それ以上**に高いと言われています。

日常生活のなかで、勢いよく**ドスン**と腰掛けていませんか？骨粗鬆症になり骨がもろくなると、ドスンと腰掛ける衝撃で背骨がいつのまにか**折れている**ことがあります。なぜドスンと腰かけてしまうのか？ドスンと座ってしまう人は、`筋力が足りない人、`柔軟性がない人、がほとんどです。

そこで今回は、ドスンと座らない為の**筋力トレーニング**をご紹介します。

方 法

- ①足を肩幅に開き
両手を胸の前に組みます。



- ②**お尻**を後ろに**突き出す**ように座りましょう



- ③最後まで背筋が曲がらないように！



回数

5回程度からはじめて、慣れてきたら**5回を1セット**とし、徐々にセット数を増やして下さい。
※痛みのない範囲で行って下さい。

鍛えられる筋肉



背筋を伸ばすように意識しますと**体幹**が鍛えられます

※どうしても、ドスンと座ってしまう人は高い椅子に座ってください。
または、椅子にクッションなど敷いたら、座面が高くなり衝撃吸収にもなります。



筋力トレーニングで体を鍛え、骨折しにくい体作りをしましょう！

電子カルテ導入



平成29年3月21日より電子カルテが稼動しました。

電子カルテシステムとは、診療記録や看護記録、検査結果、レントゲン画像といった患者様の情報をコンピュータを使用し電子データとして管理するシステムです。ここ最近では利便性の良さから多くの診療科を持つ総合病院だけではなく、診療所といった小規模な病院でも導入されております。当院でも長年検討はしてきましたが、今回宮崎市に本社を置く、コア・クリエイティブシステム社製の「Man・Go!」という電子カルテシステムを導入することとなりました。

従来の紙カルテでは手元にカルテがないことで診察がスムーズに進まないことや、注射・処置ではカルテが回ってくるまで待機せざるを得ない状況がありました。電子カルテシステムになったことで、様々なスタッフが同時にカルテを参照でき、注射・処方などのオーダーも瞬時に把握でき、スマホやノートパソコンを使用し、その場で記録できるようになりました。



また、入院病棟においては患者様のベッドサイドにて情報を確認し、診察・看護を行うことができるため、より安心で安全な医療を提供できると考えています。安全な医療の提供を目的として入院中はリストバンドを装着して

いただくことになりました。注射や点滴を実施する際に、患者様のリストバンドと点滴などに貼付してあるQRコードとの照合を行わないと実施することができない仕組みとなっており、人間の眼だけではなく機械的にも照合を行うことで、患者間違いや薬剤間違いなどの医療事故を未然に防ぐことができるようになっていきます。

電子カルテ導入当初は操作の不慣れや、運用変更等に伴い患者様にご迷惑をお掛け致しました。システムにより業務効率をあげることによって患者様の待ち時間短縮に繋がると期待しています。まだまだ不十分な点も多くありますが、温かい目で見守っていただければと思います。



当院外来フロアに生花を展示しています。月2回程度展示していますので是非御覧ください。 池坊 柏木 輝行



●皆さんから何か疑問に思われることやご質問があれば、当院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、放射線技師、事務員がお答えいたしますので文書や口頭、メールでかまいません。お寄せください。

(メールアドレス info@tachibana-hospital.jp)